

樽一物語 創業から発展期へ～その5 「池袋店開業」

高田馬場駅前に「樽一」1号店を開業した3年後の昭和46年、池袋に「樽一」2号店を開いた。池袋店は約20坪あり、高田馬場店の約3倍の広さがあった。それでも小さい店であることには変わりはないが、高田馬場の店ではお客様が入り切れずお断りせざるを得ないことも多かったので、「樽一」の酒と肴をより多くの人に味わってもらいたいという思いから、高田馬場にほど近い池袋の地に2号店を開くこととした。

池袋西口の通称ロマンス通り沿い、ロサ会館の向かいの店舗を借りて店を開いた。新しい店を開くにはもちろん開業資金がいるが、手持ち資金は乏しかった。しかし、高田馬場店は人気店となり、借金も順調に返済していつている。当時は高度成長期で景気も右肩上がり。場所も池袋の西口の繁華街でサラリーマンや学生で賑わっていた。従業員も高田馬場店で育ってきている。店主佐藤孝に躊躇はなかった。

池袋西口の2号店でも高田馬場と同じように、東北の風土と共に育った酒と肴を味わってもらうことをコンセプトに、メニューや酒も高田馬場店を踏襲した。そして、一日の働きの疲れを癒すサラリーマンのため、静かに酒と肴が楽しめる店。ただし、池袋店は静かに飲んでくれるのであれば学生さんもOKとした。

佐藤孝の狙い通り、池袋店にも客が殺到した。佐藤孝は「樽一」のような店を多くのサラリーマンが求めていることを確信した。そして、「樽一」の味をより多くの人に楽しんでもらいたいという気持ちが強くなっていった。